

医療介護連携研修会

～認知症者の意思決定支援～

認知症をテーマにした今回の講師は、いつも大変お世話になっている日赤和歌山医療センター認知症看護認定看護師の米田恭子先生。認知症についての基本的な知識から始まり、行動心理症状へのケアや事例とこれまでに何度も講義いただいています。

今回は「認知症者の意思決定支援」について。ACP やエンドオブライフ・ケアなど、人生の最終段階の意思決定支援についての関りや対応が、現場の課題となっています。がんに限らず終末期の意思決定をだれがどう行うのか。本人の意思をどう確認するのか、など現場での倫理判断が必要なことは少なくありません。DNR を確認している＝以後一切救命をしない、というわけではありません。DNR と DNAR の違い、皆さんご存じでしょうか？

認知症者もコミュニケーションや意思決定が困難になったとき、終末期医療をどうするのか。認知症になったからといって、全てにおいて判断ができないわけではありません。同意能力の有無の判断例、コミュニケーションや家族支援のポイント、支援をする時期やプロセスなど深い内容でしたが、わかりやすい言葉で説明いただきました。

後半は事例を使ってグループワーク。学んだ内容をみんなでしっかり共有しました。

最期まで本人の生きることを大切に思い尊厳を守る、気持ちは変わりうるものだ理解する、みんなで関わる、経過は記録に残す…。そういう思いも医療介護で共有し連携したいと思います。

